

しんあい

季刊

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、
ブログを毎日更新しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧ください！

2016年(平成28年)12月20日発行 第100号 ◆編集と発行 しんあい編集部

法人創立70周年 これからもどうぞよろしくお願ひします



『感謝のつどい』では、おひとりおひとりに職員から感謝のカードをお渡ししました。
(2016年10月28日 ルミエール府中)

泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター
泉苑ケアセンター

緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- あさひ苑
- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑
高齢者在宅サービスセンター

神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者
在宅サービスセンター
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ
相談センター

児童福祉

- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・母子生活支援施設網代ホームぎずな
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

- ・100号記念特集
(季刊しんあいのあゆみ)
- ・法人創立70周年記念事業
- ・施設だより
「トリにちなんだお話」

平成元年10月10日発行



第15号

平成元年12月10日発行



第16号

平成2年3月15日発行



第17号

平成2年9月15日発行



第18号

平成2年12月15日発行



第19号

昭和59年10月20日発行



第10号

昭和60年1月20日発行



第11号

昭和60年6月20日発行



第12号

昭和61年10月20日発行



第13号

昭和62年11月20日発行



第14号

昭和58年7月20日発行



第5号

昭和58年10月20日発行



第6号

昭和59年1月20日発行



第7号

昭和59年4月20日発行



第8号

昭和59年7月20日発行



第9号



昭和57年7月20日発行



第1号

昭和57年10月20日発行



第2号

昭和58年1月20日発行



第3号

昭和58年4月20日発行



第4号

元号が平成に

座談会老人ホームと家族

中城理事長
名誉都民・名誉市民

老人ホームの食事

老人ホームの部屋の様子

老人ホームのお金の使い方

老人ホームの医療

老人ホーム案内

沖藤典子氏寄稿

原田正二氏寄稿

黒田輝政氏寄稿

小笠原祐次氏寄稿

施設への理解を深めるために昭和57年『季刊しんあい』創刊

創刊34年が経ち、くしくも70周年の年に今号100号を発行することができました。季刊しんあいの発行目的とその後の経緯は、法人50年史(平成8年発行)で現理事長が執筆していますので、抜粋して紹介いたします。モノクロだった紙面は、平成13年第42号からカラー刷りとなりました。手書きの原稿は、パソコンで作成し、写真はスマホで撮影したりと、年4回発行が比較的スムーズにできるようになりました。

現在、7代目の編集長ですが、編集委員から教えてかれこれ20年以上法人の広報を担当しています。誤植でお詫びに伺ったりした失敗もありますが、励ましのおたよりも沢山いただき支えてもらいました。季刊しんあいの発行の目的を忘れずに今後も、地域に向けて法人の活動を発信していきたいと考えています。(編集長 上野廣美)

**入所の不安をなくすために
もつと施設の
本当の姿を知ってほしい**

昭和56年、新宿区の相談員が20数名信愛寮に見学に来られた。相談員によると、区内の一人暮らしの老人たちには衣食住が十分でない人も多く、アパートに暮らしていても火の心配、食事の心配が尽きないので、老人ホームを勧められるが、「死んでも老人ホームには行きたくない」と拒否される。それを説得するためにぜひ実情を見せてほしい、ということであった。

入所の不安をなくすためには、まずホームでの生活の中身を具体的に知ってもらうことではないか、そのことで老人ホームへの偏見をなくすることもできるのではないかと、この思いが『季刊しんあい』の発行につながった。それ以前にも『信愛だより』という、入所者や家族の方に向けたお知らせ版を発行していたことがあった(昭和42年創刊)が、今回は明確な発行目的を持って、東京都の地域交流事業の補助金を受けて発行することになった。

**多くの人々に支えられ
多数の励ましの
お便りに感謝**

『季刊しんあい』は、「自分が外の人間だったら何が知りたいだろうか?」というスタンスに立つことを基本姿勢に、各職種から構成された8名の編集部員によってスタートした。印刷をお願いしたのは、「あかつきコロン」という身障者授産施設だった。担当の金井さんの案内で見学させてもらったことがあるが、脊髄損傷で車椅子を使っている人や、結核による内部障害をもつ人たちが製版作業を受け持っていた。『季刊しんあい』はこういった人たちの協力にも支えられていた。

発行予定日を過ぎてしまったが、当初一、〇〇〇部の予定を一、五〇〇部にして、タブロイド版4頁の創刊号を、昭和57年7月20日、やっと世に出すことができた。ホーム利用者、職員をはじめ、町内会、市内老人クラブ、民生委員、関係官庁、関係施設、バザー協力者、利用者家族、市内の要介護老人家庭、市会議員等々広範囲

に配布したところ、感想や励ましのお便りがたくさん寄せられ、編集者一同感激した。また、この新聞をきっかけに交流が回復した家族もあり、刊行の意義を改めて噛みしめたものだった。

以後、編集委員が本来の仕事に追われたりして4回の予定が3回になったり、ときに中断したりしながらも、平成3年まで通算23号の『季刊しんあい』が発行された。

初代編集長 鈴木 恂子
2代目編集長 平野 吾一
3代目編集長 新居 千秋
4代目編集長 竜子大二朗

「バザー感謝号」では、写真入りでバザーの光景を紹介し、決算報告を掲載するとともに、寄付や協力を寄せてくださった多くの方々のお名前を紙上で公表し、感謝の念を表した。1号も発行できず、「バザー感謝号」だけで終わった年もあった。

**2年間の休刊
天皇后両陛下ご来訪特集で
平成6年に再開**

平成4〜5年の2年間は、泉苑の大改修工事からあさひ苑の開設に追われて休刊のやむなきに至ったが、平成6年から、5代目安田陸男編集長(あさひ苑副施設長)のもとに再開し、編集委員も各施設から1〜2名ずつ新しく編成された。復刊第1号は、天皇后両陛下をお迎えした日(9月12日)の大特集!お二人のお写真満載の紙面に、お年寄りたちはあの日の感激を新たにされた。

再開された『しんあい』は、頁数も10頁、12頁と増え、座談会も5頁と充実したものになった。平成7年2月発行の25号は、海外研修職員によって北欧の老人ケアの実態が紹介され、恵まれたスペースや環境に関心したり、介護の違いについて考えたりするきっかけを提供した。部数も増え(復刊第1号は三、五〇〇部)、初期に課せられた役割がますます重要になってきていく『季刊しんあい』を、末永くご愛読いただきたいと願っている。(鈴木恂子)

.....『季刊しんあい』創刊の年 1982年(昭和57年)はこんな時代でした。.....

施設の動き
昭和57年
4月18日
○法人墓地を設置(八王子市上川町1520番地上川霊園1区1番)

7月16日
○信愛寮A棟非常階段増築 登記終了(面積678.42㎡)

11月13日
○バザー10回目(10:00~15:30 5,328名)参加
寄附件数651件 ボランティア205名 収益金759万8,456円)

同年度
○家族・地域の方に老人ホームを知ってもらうために「季刊しんあい」創刊 年4回発行
○信愛寮、夜勤職員2名から3名へ
○信愛寮職員数 53名
○信愛寮職員数 25名
○しんあい工房の活動開始
○東京都網代母子寮、作業場兼集会所の新装改築工事完了
○東京都網代母子寮・白鳥寮、少年指導員1名増配置される

福祉の動き
昭和57年
4月
○「母子福祉法の一部を改正する法律」施行
妻も母子家庭に準じた取り扱いに
○厚生省、「要介護在宅老人家庭への有料家庭奉仕事業要綱」を都道府県に通知
5月
○「軽費老人ホームの設備及び運営」(本人からの事務費徴収額、特別運営費)について通知
7月
○ウィーンにて初の国連高齢者問題世界会議開幕
○厚生省児童家庭局長、「無認可保育施設に対する指導監督の実施について」通知
9月
○厚生省、「老人保健部」設置
10月
○厚生省、「国民医療費適正化総合対策推進本部」設置
○厚生省、家庭奉仕員派遣事業の対象拡大と費用徴収制度の導入を検討
○厚生省、「父子家庭介護人派遣事業実施」を通知
昭和58年
2月
○「老人保健法」施行(1973年以来無料だった70歳以上の医療を一部有料化)
○厚生省、老人精神衛生相談事業を47都道府県に各1か所ずつの保健所で発足

平成16年11月5日発行



緑苑移転10年

第55号

平成17年3月20日発行



第56号

平成17年7月20日発行



第57号

平成17年11月20日発行



韓国交換研修開始

第58号

平成18年3月20日発行



スウェーデンから研修生を迎えて

第59号

平成15年4月20日発行



第50号

平成15年8月1日発行



第51号

平成15年12月1日発行



第52号

平成16年3月31日発行



かんた連雀オープン

第53号

平成16年8月5日発行



スウェーデン交換研修開始

第54号

平成13年10月20日発行



第45号

平成14年2月20日発行



第46号

平成14年5月20日発行



第47号

平成14年7月20日発行



坂本蔵理事長就任

第48号

平成14年12月20日発行



第49号

平成11年9月20日発行



第40号

平成12年3月1日発行



第41号

平成12年9月22日発行



第42号

平成12年12月10日発行



第43号

平成13年7月10日発行



第44号

21世紀を迎えて

紙面がカラーに

施設だより開始

平成9年9月20日発行



第35号

平成9年12月20日発行



第36号

平成10年3月20日発行



第37号

平成10年7月10日発行



第38号

平成10年11月20日発行



第39号

平成8年5月20日発行



第30号

平成8年8月10日発行



第31号

平成8年11月20日発行



第32号

平成9年2月20日発行



第33号

平成9年5月20日発行



第34号

介護保険を考えるシリーズ開始

平成7年2月10日発行



第25号

平成7年5月10日発行



第26号

平成7年8月10日発行



第27号

平成7年11月10日発行



第28号

平成8年2月10日発行



第29号

北欧の老人ケアを視察

防災特集

子ども家庭支援センターとは

平成3年3月15日発行



第20号

平成3年8月10日発行



第21号

平成4年1月1日発行



第22号

平成4年12月1日発行



第23号

平成6年11月1日発行



第24号

復刊・天皇后陛下御幸啓

平成27年8月5日発行



第95号

平成26年5月25日発行



第90号

平成25年2月10日発行



第85号

平成23年11月5日発行



第80号

高齢者住宅のひろ多磨
オープン

平成22年11月5日発行



第75号

平成21年9月5日発行



第70号

平成20年2月15日発行



第65号

平成18年8月5日発行



第60号

平成27年11月5日発行



第96号

しんあいの学習サポートサロン

平成26年8月5日発行



第91号

平成25年5月25日発行



第86号

平成24年2月1日発行



第81号

緑苑増築棟完成

平成23年2月5日発行



第76号

平成21年11月5日発行



第71号

平成20年8月5日発行



第66号

平成18年11月15日発行



第61号

平成28年2月5日発行



第97号

かがやきプラザ
相談センターオープン

平成26年11月5日発行



第92号

平成25年8月5日発行



第87号

あさひ苑20周年

平成24年5月10日発行



第82号

平成23年5月5日発行



第77号

平成22年2月5日発行



第72号

平成20年10月5日発行



第67号

平成19年2月15日発行



第62号

法人創立60周年

平成28年5月5日発行



第98号

平成27年2月5日発行



第93号

平成25年11月5日発行



第88号

開講安心シニア塾

平成24年8月10日発行



第83号

鈴木恂子理事長就任

平成23年5月31日発行



第78号

東日本大震災
その時わたしたちは

平成22年5月5日発行



第73号

平成21年1月5日発行



第68号

平成19年7月15日発行



第63号

平成28年8月5日発行



第99号

平成27年5月5日発行



第94号

平成26年2月5日発行



第89号

平成24年11月5日発行



第84号

平成23年8月9日発行



第79号

新・介護保険を考える
連載開始

平成22年8月25日発行



第74号

平成21年5月5日発行



第69号

平成19年10月15日発行



第64号

平成28年10月28日金曜日に、ルミエール府中コンベンションホール飛鳥にて「法人創立70周年感謝のつどい」を開催しました。

当日は寒空の中、小雨の降るあいにくのお天気でしたが、各施設で活躍するボランティア、民生委員の皆さま、地域の方々約180名にお越しいただきました。

参加いただいたお一人一人には、職員が心を込めて書いた感謝のカードを手渡し、日頃なかなか表せない感謝の気持ちをお伝えしました。皆さん受け取る時すぐに開いて目を通されていて、互いに見せ合ったり、職員との話にも花が咲いていました。

会の最後には、各施設のボランティア活動をスライド映像で紹介させていただきました。映像の説明を担当する職員は、大勢の方々に前に緊張していましたが、皆さまの暖かい拍手と笑顔に支えられ、大役を果たすことができました。

お見送りの際、「参加してとても良かった。」「メッセーカード本当にうれしかった。ありがとう。」「と、暖かいお声をいただきました。皆さんが笑顔で帰っていかれたことがとても印象的でした。職員と地域の方々との繋がりが、法人と地域との強い絆を感じられる、心温まる会になったと感じました。

法人創立70周年を迎えられたのも、地域の皆さまのご理解、ご協力、ご支援あつてのことです。本当にありがとうございます。地域に感謝の気持ちを込めて、これからもますます努力していきます。今後ともどうぞよろしく願っています。

(たち 星野幸子)

つどい 府中地区 きずな

感謝の 神田地区

平成28年度11月24日木曜日、記録的な寒波の影響で都内でも初雪が観測されるほど寒さの厳しい日となりました。

岩本町ほほえみプラザ区民ホールでは、かんだ連雀、岩本町ほほえみプラザの2施設で活動をしてください。感謝の気持ちを伝える「感謝の集い」を開催しました。

日頃のボランティア活動をスライド映像で紹介していると、「いろいろな活動があるね」「これもボランティアの人だったの」と、参加者のみなさまも興味深くご覧になっていました。

同じ場所で開催していても、活動する時間帯が違ったり、担当する部署が違えばお互いどんなボランティアをしているのか、知ることができません。そんなボランティアのみなさまが、お互いの活動について話し合ったり、共通のご利用者の話題で盛り上がったりと、とても貴重な時間となりました。

食事の準備や洗い物、余暇活動のお手伝いなど、職員の手が回らないことをボランティアのみなさまが補ってくださいます。ご利用者がより良い生活を送るため、ボランティアのみなさまの活躍が必要不可欠です。

法人設立70周年を迎えましたが、多摩同胞会が神田で事業を始めてまだ、16年。法人と神田での歴史を重ねていけるよう、ボランティアの方々をはじめ、地域の方々いつも感謝の気持ちを忘れないことが大切だと改めて気づきました。

(岩本町ほほえみプラザ 木村 優佳)



法人創立70周年 記念事業



地域でつながる

～誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して～

平成28年11月17日木曜日にルミエール府中にて「法人創立70周年記念シンポジウム」を開催しました。行政の関係者や地域の方々約120名の参加をいただきました。

テーマは「地域でつながる～誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して」とし、シンポジウムは府中市、府中市社会福祉協議会、児童民生委員、地域活動している住民の方など幅広いメンバーから、それぞれの立場で発言がありました。また、発表した二事例は児童、高齢のそれぞれの分野からで、共通していたことは「地域で支え合うことの大切さ」でした。

参加された方からは「住んでいる地域で高齢者が多く、どのような事が必要なのか勉強になった」「私も地域の役に立ちたいので、何かに参加したいと思った」などの感想が聞かれました。

私も地域包括支援センターの相談員として日々地域を廻っていますが、独居高齢者の社会的孤立をどう防ぐのか、またどのように地域や介護サービスにつながるかを考える良い機会になりました。

(府中市地域包括支援センター泉苑 岩淵研哉)

シンポジウム 府中地区



府中市高野市長様より

お言葉を頂きました



昭和21年12月に多摩同胞会は財団法人として認可されました。それという信念のもと歩んできました。に感謝し、これからも地域福祉の向上に努めてまいります。70周年を記念し、府中、神田で取り組んだ事業をご報告します。

平成28年11月19日土曜日、岩本町ほほえみプラザ1階多目的ホールにて、「法人創立70周年記念シンポジウム」を開催しました。雨が降り、肌寒い悪天候にもかかわらず、約80名の方々にお越しいただきました。

岩本町ほほえみプラザ坂本館長の挨拶の後、千代田区長石川雅己様、千代田区議会議員長戸張孝次郎様からご挨拶をいただきました。鈴木理事長がシンポジウムの主旨説明をした後、小笠原理事の司会進行にてシンポジウム開始。職員より2つの事例報告をし、その事例を踏まえ、シンポジウムからご家族の立場での介護体験、区民としての地域についてとボランティアとしての関わり、千代田区役所と社会福祉協議会としての取組みなどについてそれぞれご発言いただきました。

シンポジウムの皆様よりたくさんのご発言をいただき、予定の時刻より少し超過しての終了となりました。千代田区で16年間、法人の活動が少し認められたのを感じ、今後はシンポジウムで出たご意見を真摯に受け止め、神田で安心して住み続けられるような仕組み作りを、法人としてしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

(かがやきプラザ 長峰茂子)

神田の福祉
～安心して住み続けられるために
地域包括ケアを考える～

シンポジウム 神田地区



千代田区石川区長様より
お言葉を頂きました

施設 だより



トリとちなんだお話



来年の干支「酉」にちなんで、各施設から「酉、鳥、取り」のお話をお届けします。

しらとり

巣箱

白鳥寮には小さな庭があり、たくさん植物が育ち、子ども達だけでなく虫や鳥が遊びに来ます。数年前の節分には鳥が子ども達とまいた大豆を食べに来てくれたので、名前を付けたりしながら窓越しで観察を楽しみました。また事務所にも鳥や虫の鳴き声が聞こえてくるので四季を感じることが出来ます。

事務所から一番よく見える木に子どもが学校で作った鳥の巣箱がかけてあります。いつから置いてあるのかはわかりませんが、人が触れたものにはなかなか鳥は入らないという話を聞いていたので気になり様子を見守っていました。ある日、その巣箱の中で鳥たちが身体を休め、また空へ飛び立っていき姿を見ました。何年か経過していた中で初めてみた光景でした。その姿は利用者と私たち職員の間わりにも少し似ているのではないかと感じます。その巣箱のように白鳥寮で、すこしゆったりと親子で過ごせる時間をもち、退所後は、地域で安心して過ごせるように私たち職員が巣箱のように羽根を休められる場所や存在になれたらと思います。

母子支援員(社会福祉士)
白井 厚子



きずな

私の酉はどんな酉??

来年は酉年ということなのですが、きずなの学童には年男も年女もいないのが残念です。酉年についていろいろ調べてみました。酉年の中にも生まれ年によって5種類に分類され、それぞれ性格や特徴が異なるようです。乙酉(きのとり)は水鶏、丁酉(ひのととり)は鬪鶏、己酉(うちのととり)は野鶏、辛酉(かのとり)は軍鶏、癸酉(みずのととり)は家鶏とされています。酉年の中にもさまざまな種類があり、特徴が異なることに驚きました。

私は年女、癸酉(みずのととり)の生まれです。癸酉とは家に飼われている鶏を意味し、温厚な性格が特徴のようです。一方で、酉年は負けず嫌いとも言われています。子どもたちと関わる際、温厚だけでなく、厳しく接することも愛情であると感じます。愛情を持って穏やかに接し、伝えるべきところをはっきりと伝えることを意識しながら関わっていきたいと考えます。子ども達の元気さに負けなように来年も頑張ります。

少年指導員 中村 綾花



たっち

「とり」合っっっ

お正月のものには「昆布↓よろこ(ん)ぶ」と縁起を担いだ意味がいろいろあるように、干支の動物達にもそれぞれ意味があるそうです。来年の干支である「酉」は、人に時を報せる動物で、「とりこむ」ということから商売には縁起がよいとされており、「親切で世話好き」の意味があるそうです。

さて、たっちのリフレッシュ保育で見られる「とり」は、「とり合っっっ」です。満1歳から小学校就学前までのお子さんが入室し、異年齢の関わりの中で小さいお友達に優しく関わったり、いろいろなことを感じ人間関係を学んでいます。子ども同士のとりに合っっっは可愛らしいものですが、自分の感情を表現することはとても大切なことなので、我慢せずに十分に主張ができるように安全な範囲で見守っています。そして納得したところで、「ごめんね」「ごめね」の仲直り。小さいながらもよくなかったなと感じている姿はとても愛おしく、大人の世界でもこのように素直でいられたらよいのになと考えさせられます。

さあ、もうすぐ新しい年の始まりです。来年こそ酉の意味のように人に親切であり、子どもの姿に学んで素直な人間でいられますように……。

リフレッシュ保育

(保育士) 齋藤 絵里



緑苑

私も羽ばたきます!

今年も緑苑では敬老のお祝いの時に、紅白の折鶴と一緒に、賀寿者の皆様のお名前を掲示し、104歳の方を筆頭に、皆様のご長寿をお祝いさせていただきました。来年もまた皆平等に歳を重ねていきますが、来年の干支は、「丁酉(ひのととり・ていゆう)」という事で、人生の大先輩の皆様と、関わりを持たせてもらっている緑苑職員のなかでも、男性4名、女性6名の計10名が酉年で年男、年女を迎えます。その中でも来年還暦を迎える永年勤務の職員が3名もいます。

「ご長寿の皆様は長生きの秘訣を伺うと、「成るようになる、気兼ねしないで」と笑顔で答えます。また還暦を迎える職員に永年勤務の秘訣をたずねると、「ごく自然に勤めること」との返事。どちらの答えも、あまり肩肘張らないでいけばいいのよ」と、言われているようで、ほっとします。

これからも、緑苑のご利用者の方々や地域の方々、人生の先輩方との関わりを持つなかで、自分達も、鳥のように羽ばたいていけるよう、あまり肩肘張らないで、背中を追い続けていきたいと思えます。

包括支援センター相談員

(社会福祉士) 田口 宏樹



岩本町

トリ肉いっぱい入ってます！

グループホームいわももでは週に2回、お昼ごはんの献立をたてることから作って食べるころまで、入居者の皆さんと一緒にしています。

お料理の本を見ながら「なににしようか?」「なにが食べたい?」「全部おいしそうだから迷っちゃおう」と話が弾みます。

寒くなってきたから温かいものがいいですね、と職員が提案すると、おでん、鍋、うどんなどどれもまた候補がたくさん!

皆さんで意見を出し合った結果、メニューはシチューに決定。

ブロックリーににんじん、じゃがいも、たまねぎ、そしてトリ肉。

たくさん具材を切ったり炒めたり、職員と入居者の皆さんと協力してシチューを作ります。

そうして完成させたシチューは彩も良くとてもおいしそう。

「おいしい」「身体があったまるね」

みんなで協力して出来上がったシチューは皆さんにも大好評。よかったですよ。

寒さに負けずたくさんご飯を食べ、グループホームいわももみなさんは今日もとても元気です!

グループホーム

(介護福祉士) 橋本 友里子



連雀

千代田区の鳥?

今年も気が付けばカレンダーも残り1枚になってしまいました。

来年の話をするには少し早い気もしますが、先日ご利用者の皆さんと活動で体操を行っていた際、体操の合間に「もう11月も半ばになってしまいましたね」と話すと「もうそんな時期になったの?」「時間が経つのは早いね」と、皆さん揃って驚ろかれました。

「来年は酉年になりますが、千代田区で鳥にまつわる話しはありますか?」しばらく沈黙のあと、Aさんが「靖国神社に鳥があるじゃない」私が少し考えていると「飛ぶ鳥じゃなくて鳥居のことよ」思わず「あーなるほど!入口に大きい鳥居がありますね、お上手です!」と拍手!

連雀では千代田区で長年暮らしていた方が多く入居されており、千代田区にまつわるお話しをしていると靖国神社の話もよく出てきます。

靖国神社は戦没者を祀っているので、特に男性のご利用者は戦争を経験された方も多く想いは人一倍だと感じます。

ちなみに、Aさんとはお正月の話題で大いに盛り上がりました。

かんだ連雀

(介護福祉士) 木村 隆秀



泉苑

長生き

2016年もあっという間に過ぎました。申年も終わり、来年は酉年です。さて「トリ」といえば、「鶴は千年、亀は万年」ということわざにもあるようにトリのなかでも鶴は長生きの象徴で縁起の良いものです。泉苑では、敬老の日にお祝い膳の前に私たち食事係からもそのような話をしました。

お祝いの言葉と共にお膳のふたを開けると、「ご利用者は「すごいわね」と感心してくれて、「私は長生きなのよ」と胸を張って言われました。また、手作りのおやつを提供した際には「甘いもの大好きなのよ。元気がでるわ。」ととても喜んでいただきました。

おいしいもの、好きなものを食べることはご利用者の長寿に貢献できていると感じ、これからも食べることを楽しみのひとつとして長生きしていただきたいと思っています。

十二支の酉の意味の中には「とり」の意味もあり、良いものを取り入れる縁起の良い年です。

私自身は気持ちの良い挨拶をすることで自分も周りも笑顔を取り入れられたらいいなと思います。ご利用者も職員も来年は笑顔の多い一年にしたいと思えます。

(栄養士) 飯井 夢美



ご利用者の作品 はり絵です

あさひ苑

お酉様

府中の大国魂神社では、毎年11月になると酉の市が開かれます。大国魂神社は111年に創設されたという由緒のある武蔵の総本社です。私の愛読書、司馬遼太郎著「燃えよ。剣」にも土方歳三が大国魂神社を訪れた記述があります。

今年の酉の日は11日、23日の両日の二の酉まででした。三の酉までである年は火事が多いと言われているので少し安心しました。

境内では縁起物の熊手を売る店が立ち並び、威勢のいい手締めの声が響き、子どもも喜ぶ綿菓子などの露店が出て賑わいます。

私自身、酉の市はあまり馴染みがなく、テレビで浅草などが風物詩で紹介されているのを見る程度だったのですが、私の担当するご利用者やそのご家族などが「今年はこの酉までだな。」などと話しているのを聞くと生活に根付いている行事ということが実感できます。

府中市は甲州街道筋の町であり、商売をする人も多いことから高価な熊手も良く売れるようです。ご利用者が、「家が商売をやっていたから、毎年、親に連れて行ってもらったよ。この時期はもう寒かった事を覚えているよ。昔は今と違って楽しみが少なかったから、それは楽しみにしたものだ。」と話してくださいました。縁起物の熊手は高価で私にはとても手が出ないので、寒い中、缶ビールを片手に焼きトリでも頼張りながら、往時の英雄に思いを馳せました。



居宅介護支援事業所(介護支援専門員) 江國 岳

ニュース

11月5日 キャンプ

今年度、バンクオブアメリカ・メルリンチ助成金によって、子どもと親のコミュニケーション育成事業「ことばキャンプ」が必ずなとしらとりにて行われました。(実施者は、NPO法人JAMネットワーク)「ことばキャンプ」は、聞く・チカラ・話すチカラの基礎となる「7つのチカラ」を、身に付けるためのトレーニングプログラムです。

これらを日常生活で実践することでコミュニケーション能力を育て、子どもの自立を促すことができます。すでに子ども向けのキャンプ、親向けのキャンプ、親子向けのキャンプが開催されました。どの親子も笑顔で参加し、楽しみなが取り組んでいました。度胸力・理解力・語彙力・プレゼン力・論理力・応答力・説得力を主に、多くの生きるチカラを育てるステップアップとし、今後社会生活を営むことが出来ればうれしいと思っています。

(さすな 宮城 晋)



御寄贈・御寄付ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

あかしや会 有限会社秋山酒店 浅野貞子 大沢良三 大塚元子 KCGROUP株式会社キッザニア東京 栗林正昭 栗原宏子 健康麻雀の集い(無垢の会) 高齢者クラブ若松幹の会 国際ソロプチミストあきる野 小島ユミ子 小山努 佐々間廣太郎 CITEKソノリユニーションズ 塩澤佳津子 株式会社JIMOS 株式会社三晃 須藤光忠 セカンドハーベストジャパン 浅間町二丁目自治会 浅間町婦人会 高砂会 田辺十二子 津田順子 寺西健次 東京都食肉衛生同業組合 東京原宿ライオンズクラブ 株式会社陶和 永井よし子 日本レコード協会 廣池利邦 馬淵敏子 三井物産株式会社 緑町一丁目自治会 緑町三丁目自治会 宮崎永子 睦会 横山龍男 老人クラブ東桜会

(2016年7月~2016年10月)

ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

会田久枝 赤林好子 青野まり 明石みのり 朝倉啓 森ハンドベルの集い 高井汪子 高橋恭子 高橋チ子 網代恵美 荒井迪子 荒波智子 有本陽子 飯田ヨ子 瀧澤千登勢 竹内由美子 武野純子 竹松ふく志子 飯塚喜彦子 囲碁を楽しむ会 石井久子 石井宏 石坂勝世 石坂トメコ 伊集院撰津子 市川アイ子 市川知子 市川ももね 一步の会 井出直子 井上智美 岩崎敏信 岩崎順 岩淵 杏奈 植松八千代 魚川桂子 内保三重子 内堀美喜 梅林治代 梅原薫 梅原光洋 卜部和子 上床晃代 榎本成子 遠藤伊代 遠藤みつよ 遠藤陽子 大倉弘子 大島庸子 太田久美子 大野文子 大類浩平 岡田基子 岡野洋子 小川健治 小川日遥美 荻野和子 奥山亜子 奥山チヤ子 小倉富子 オコサの会 尾崎節子 尾崎絃之 尾崎靖宣 尾崎ヨシ子 音楽園 おはなし夢くらぶ OhanaHulaTeam 折田浩一 海江田紀久子 笠岡豊子 鹿島キチ 鹿島千重子 船野美千代 片桐キミ子 片山貴美子 カットサロンアベ 加藤栄子 加藤静 加藤規子 加藤美美子 加藤洋子 金指真美 金子武仁 上沢美和子 神山しげ子 亀岡紀知信 川崎雅人 河田千世 川村智子 神崎佐和子 菊地裕子 さすなの手・江戸川 北島章雄 北島美恵子 木谷教子 木森哲 清田敏子 具嶋郁子 草野美鈴 國定毅 久保田摩耶子 蔵内睦子 栗原宏子 弦間まさ 小石暁子 小出農一 小出由美子 小岩井雅人 石澤圭子 小崎慶子 小島ユミ子 小島百合子 小菅よし江 五島優花 後藤祐輝 小林幸代 小林千波 小林照子 小林真弓 小林道子 小林美代子 小林わか子 駒ヶ嶺奏秀 是永美代子 今野幸子 斎藤孝子 斎藤智恵子 斎藤千枝子 齋藤則子 酒井和子 坂井香奈絵 坂本越子 坂本尚子 佐久間桂子 佐治美枝子 佐藤イソ 佐藤公子 佐藤妙子 佐藤なか子 佐藤初江 佐藤秀和 佐野田鶴子 椎名君代 塩澤佳津子 重田文子 設楽文子 品田啓子 芝江義治 島田たす 清水文枝 清水光子 志村誠 下江美鈴 下宏子 白石淑子 進藤サエ子 新村信子 末次真梨子 杉本節子 杉山恵子 鈴木暉子 鈴木美樹 鈴木好枝 スターバックスコーピー 瀬戸貞子 浅間

(2016年7月~2016年10月)

編集後記

秋のバイクツーリングに行きました。山深いところでは紅葉しており、秋を実感できました。

(泉苑 岩淵研哉)

家族で栗ひろいとさつま芋掘りをしてきました！虫が苦手な私は一人大騒ぎでしたが、子どもは収穫の秋を存分に楽しんだようです。

(たっち 星野幸子)

いろいろな秋がありますが私はやっぱり食欲の秋が一番です。おいしい食べ物についてい目が行ってしまっているです。

(泉苑 青木美沙子)

自転車ですわやかな風を感じながら、紅葉を楽しんできました。

(かんだ連雀 栗沢尚広)

今年度、介護支援専門員を初めて受験しました。合格を祈っております。

(あさひ苑 永井厚輔)

先月秋の運動会が終わったと思ったら、今月は学芸会と子供の行事満載の季節です。

(あさひ苑 西毅)

グループホームの皆様と秋のお出かけに行きました。皆さん楽しんで下さりなによりでした。

(岩本 木村優佳)

あつという間に日々が過ぎ秋を迎えたかと思うと、もう冬寒さに負けず頑張ります。

(さすな 今野晴香)

掃除しても、掃いても落ちてくるとも散らしていく子ども達。日々深まる秋を感じています。

(しらとり 山中有佳)

年4回発行すると二〇四一年に200号。その時も社会福祉法人の根本「地域のために、地域とともに」は変わらないと思います。

(事務局 青木志乃)

しんあい100号と法人創設70周年記念を企画しました。いかがでしたでしょうか。101号の準備を始めています。どうぞお楽しみに！

(編集長 上野廣美)

介護に関するご相談は
無料ダイヤルで！
0120-6540-24
老後支援24時間

あさひ苑
0120-2942-24
福祉につこり24時間

